

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023

口頭発表

専門医療機関連携薬局が1年間に行ったがん治療に対する薬学的介入の実態調査について

総合メディカル（株） そうごう薬局 天神中央店

本田 雅志

【目的】 そうごう薬局天神中央店（以下、当薬局）は、外来がん治療専門薬剤師を中心として、薬薬連携の強化やがん患者に対する応対手順標準化など様々な取り組みを行っており、2021年8月には専門医療機関連携薬局として認定された。今回は、1年間にがん薬物治療に介入し、医師へ処方提案した事例について調査・検討した結果を報告する。

【方法】 2021年6月～2022年5月に、ホルモン剤単剤治療を除く外来がん薬物療法に介入し、医師への情報提供および問い合わせ方法について、「疑義照会」「トレーシングレポート（以下、TR）」「医師への情報提供を行い、連携充実加算を算定したTR（以下、連携TR）」に分類し、そのうち処方提案も行った件数、提案内容の採択の有無、転帰について調査した。

【結果】 該当期間内に、外来がん薬物治療患者392名が述べ2,286回来局した。処方提案も行った疑義照会は47人に49回実施し、提案採択（以下、採択）件数は34回（69.4%）であった。また、TR・連携TRを提出した222人のうち、TRでの処方提案は29人に39回行い、採択件数は21件（53.8%）、連携TRでの処方提案は33人に69回行い、採択件数は38件（55.1%）であった。提案が医師に採択され処方変更となった患者について、その後の転帰が改善されたと判定できたのは、疑義照会で4件（11.8%）、TRで9件（42.9%）、連携TRで22件（57.9%）であった。一方、現状維持と判定されたものは、疑義照会で23件（67.6%）、TRで10件（47.6%）、連携TRで10件（26.3%）であった。

【考察】 今回の結果より、薬学的専門性を活かした処方提案が採択され、転帰として改善（計35件）または現状維持（計43件）となった件数など、薬剤師の介入成果を明らかにすることができた。今回は1施設での調査であったが、今後複数の専門医療機関連携薬局を対象に同様の調査を実施し、薬剤師の介入成果についてより詳細な分析を行いたいと考えている。